

茶

40th Anniversary of The Kosetsu Museum of Art
The Fourth Exhibition

開館40周年記念名品展：第4期 茶道具編

40

開館四十周年
記念名品展

茶人村山香雪
11月2日(土) ~ 12月23日(月・祝)

※作品保護のため一部展示替えがあります。

前期 11月2日(土) ~ 11月27日(水)

後期 11月28日(木) ~ 12月23日(月・祝)

開館時間 午前10時 ~ 午後5時(入館は午後4時30分まで)・会期中無休

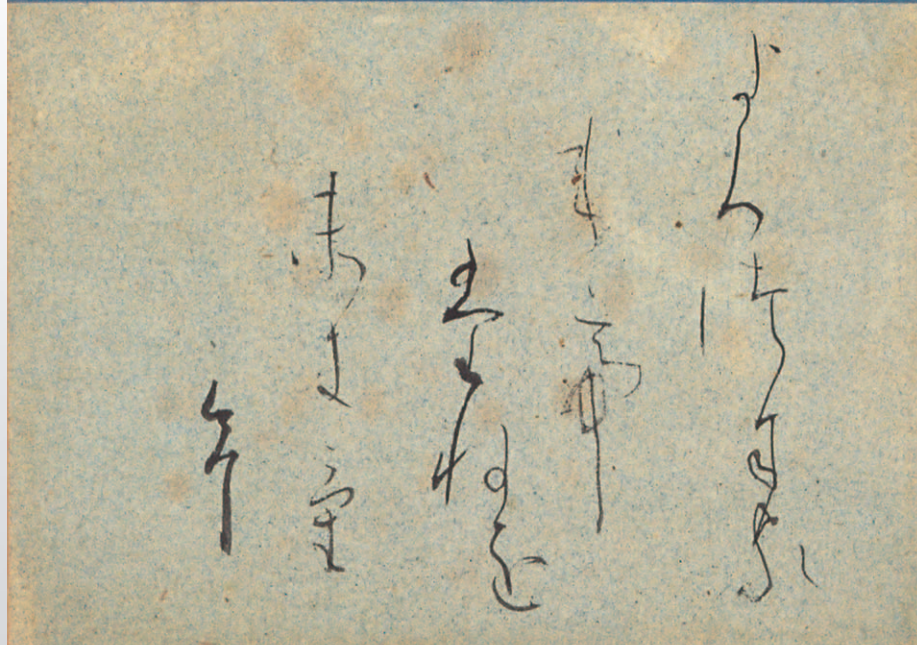
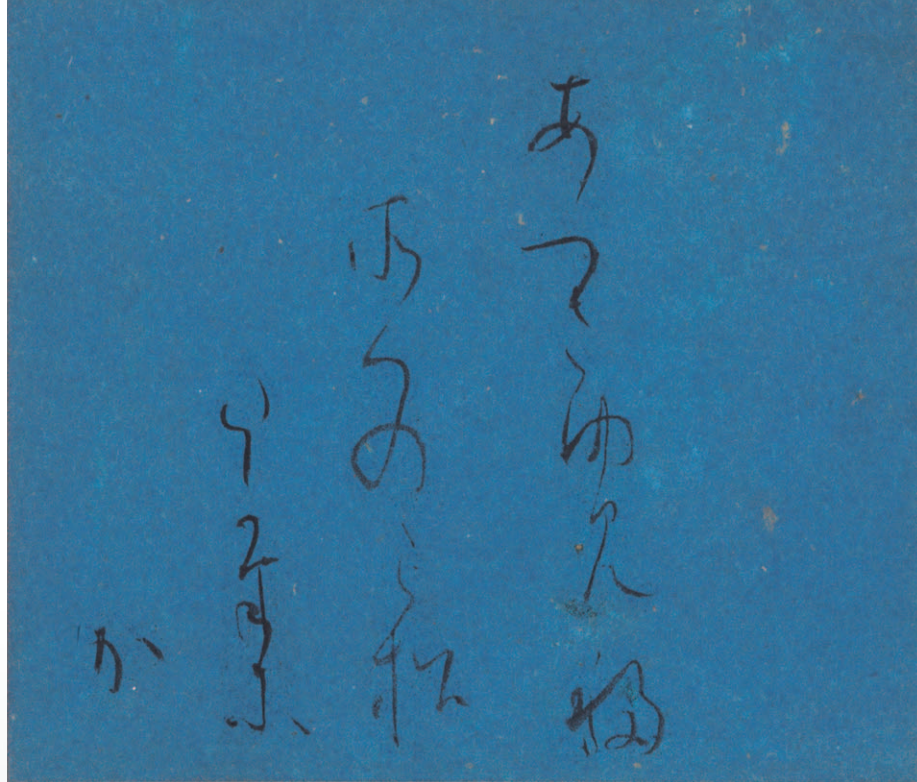
観覧料 一般700(500)円、大高生450(350)円、中学生以下無料※(内は20名以上の団体料金)

会場 香雪美術館

兵庫県神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1 問い合わせ 0778-84110652

共催 朝日新聞社

香雪美術館



数寄者 香雪の審美眼

上：(伝)小野道風「緑色紙」平安時代 前期 下：重要文化財「志野松籬絵水指」桃山時代

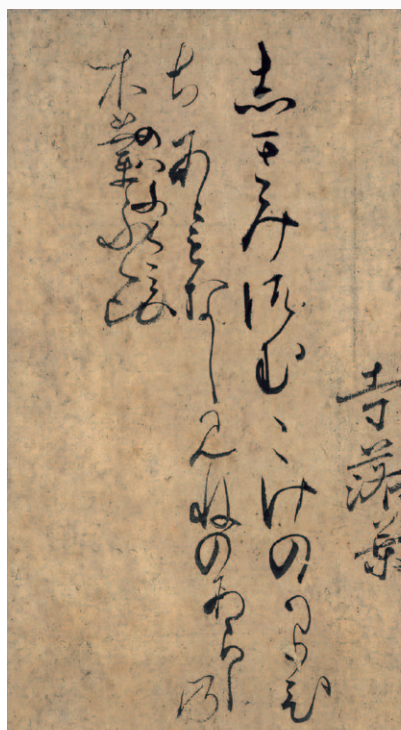
香雪美術館は昭和48年(1973)に開館し、本年で40周年を迎えました。朝日新聞を創刊した村山龍平(号・香雪1850～1933)が蒐集した日本・東洋の古美術コレクションを所蔵する美術館で、館蔵品は絵画、仏教美術、書跡、茶道具から武具まで幅広いジャンルにおよび、重要文化財18点、重要美術品27点を数えます。本年は、開館40周年記念の名品展を4期に分けて開催してまいりました(1絵画編、2刀剣編、3仏教美術編)。

締めくくりの第4期展では、古儀茶道藪内流の茶道を修め、近代の数寄者に名を連ねた村山龍平翁のコレクションを通して、茶人としての心と姿をご紹介します。

明治35年(1902)大阪の実業界を中心に生まれた茶の湯の会「十八会」は、朝日新聞・村山龍平、上野理一と藤田組・藤田伝三郎が発起人

となり、財閥の住友吉左衛門、豪商の殿村平右衛門、白鶴の嘉納治兵衛ら18名が参加。明治41年(1908)には茶の師・藪内節庵を中心に「篠園会」が発足し、古美術の保護と鑑賞とともに学び楽しみました。日本人の自然を愛する美意識を高く評価したインドの思想家タゴールが来阪の際、御影の自邸でお茶の席を設けた逸話も残っています。龍平翁は「まだそういう資格はない」といって皆伝を固辞していましたが、その没後に藪内竹窓(藪内家元11代)より「贈り皆伝」として、村山紹龍の名を得ました。

本展では、実際に茶会で活躍した名品等、約60点を展覧いたします。



(伝)西行「落葉切」鎌倉時代 **【前期】**



赤絵金襴手 人物文鉢 銘「大マレモノ」中国・明時代



志野茶碗 銘「朝日影」桃山時代



千利休「一重切花入」桃山時代



重要美術品 楽長次郎 黒茶碗 銘「古狐」桃山時代



重要美術品 漢作唐物 丸壺茶入「利休丸壺」中国・南宋時代



青磁「袋鼠香合」中国・明時代

主な出品作品

重要美術品 藤原伊房「藍紙本万葉集切」平安時代 **【後期】**

(伝)紀貫之「高野切 第三種」平安時代 **【前期】**

野々村仁清「色絵吉野山図色紙皿」江戸時代

梅園会(講演会と茶会)

日時:12月3日(火)午後1時から/茶会:午後3時から

講師:熊倉功夫氏(静岡文化芸術大学学長・茶道史研究家)

講演:「茶人 村山龍平と茶友たち」

定員:50名(応募多数の場合は抽選)

参加費:3,000円

※「香雪美術館開館40周年記念名品展 第4期:茶道具編『茶人 村山龍平』展」の入場料を含みます

申込方法:

往復はがきに住所・氏名(返信用にも)・電話番号を明記のうえ、下記宛先までお送りください。はがき1枚につき2人まで申し込みできます。その場合、必ず2人の住所・氏名、電話番号を明記してください。

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1 香雪美術館「梅園会」係

申込締切:11月20日(水)必着



ギャラリートーク

会期中の毎週土曜日、午後2時から
学芸員によるギャラリートークを行います。

※ギャラリートークの聴講は無料ですが、
別途展覧会の鑑賞券が必要です。

公益財団法人 香雪美術館

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

Tel.: 078-841-0652

<http://www.kosetsu-museum.or.jp>

阪急「御影」駅より東南へ徒歩5分

JR「住吉」駅より北西へ徒歩15分

阪神「御影」駅より市バス19系統「阪急御影」下車徒歩5分